



いのちを守る、暮らしを守る。

2018年3月23日 第68号

東京都議会議員
都議会公明党

遠藤守レポート

現場目線で予算をチェック

新年度予算を審議する第1回定例都議会において、都議会公明党は、代表質問（3月1日）、一般質問（同2日・5日）で「現場目線」から具体的な提案を行いました。主な質疑の要旨をQ&A形式で紹介します。

【写真=3月22日、厚生委員会で新年度予算関連の意見表明をする遠藤都議】

医療・福祉

新生児聴覚検査

Q：先天性の聴覚障害の早期発見・治療のために、全ての新生児が聴覚検査を受けられるよう、公費負担制度を整備するとともに、区市町村や医療機関などが連携して推進する体制を構築すべき。

A：都は昨年12月から、区市町村、東京都医師会との間で、公費負担制度の導入について協議を開始した。平成31年度から全ての区市町村で共通の受診券を活用した公費負担を実施できるよう検討する。



老健施設の短期入所

Q：介護老人保健施設のショートステイを活用したレスパイトを本格的に開始すべき。

A：都は来年度、施設ごとの医療サービスの内容や空き情報を提供する専用ホームページの構築、介護支援専門員や病院の医療ソーシャルワーカー等を対象とした、介護老人保健施設の短期入所活用に向けた研修など、事業団体の取り組みを支援し、短期入所の円滑な利用を促進していく。

シルバーパス

Q：所得に応じて、シルバーパスの購入額を軽減したり、利用できる路線を拡大すること等を検討するため、現在の利用状況について実態調査を行うべき。

A：シルバーパス制度は、高齢化が進む中で、事業費は更に増加することが見込まれている。今後、東京バス協会や区市町村の協力を得て、利用実態を含めた調査の実施を検討する。